

初代細胞スターティング培地 MF-start™

繊維芽細胞、脂肪細胞、軟骨細胞、間葉系幹細胞や組織からの分離培養効率を向上させます。

貴重な生体サンプルを入手しても思うように細胞培養が立上らず、悔しい思いをしたことはありませんか。初代細胞の樹立には組織処理方法だけでなく初期培養にどの培地を使うかが重要です。

今までどの培地でもうまくいかなかった方、是非この培地をお試ください。

特徴 1 アウトグロース効率の向上

- ・分離培養直後のアウトグロース効率、コロニー形成効率が向上します。

特徴 2 間葉系由来細胞の樹立に

- ・繊維芽細胞、脂肪細胞、軟骨細胞、間葉系幹細胞などの間葉系細胞に最適です。
※血球系、上皮系には不適です。

特徴 3 簡単調製

- ・基礎培地に添付の1種類の添加剤を加えるだけで簡単に調製可能です。



使用方法

1. 細切方法、酵素処理方法などにより組織から目的とする細胞を調製します。
 2. 分離した細胞、若しくは処理した組織をMF-start™で培養します。
 3. 4~10日間 培地交換せず、本培地で培養します。
 4. 細胞がコロニー様に増殖しはじめたら、所定の増殖培地で培地交換を行います。
増殖が緩慢な場合は引き続き MF-start™で培養します。
 5. 以後、定法に従い細胞培養を行います。
- ※増殖培地としては弊社MF-medium®のご使用をお勧めいたします。

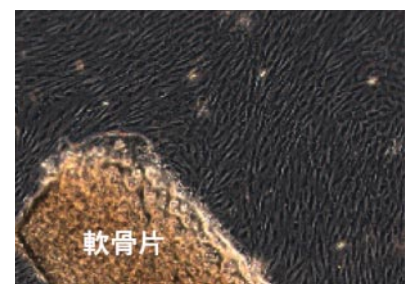


図1. ヒト関節軟骨からの細胞樹立

実施例 1 ラット胎児組織からの細胞樹立

ラット胎児組織をコラゲナーゼ消化後、回収した細胞を各培地で10日培養後、増殖した細胞をカウントしました。

MF-start™では優れた立上りを観察できました。

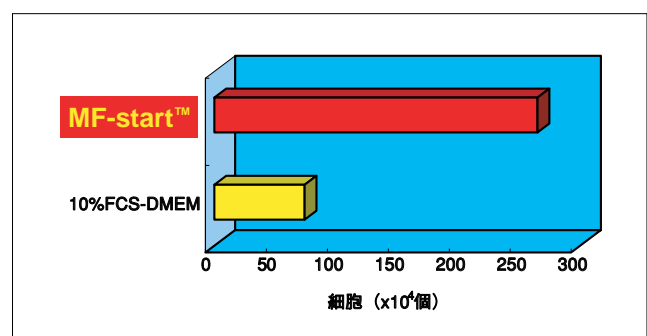


図2. ラット胎児組織からの分離増殖細胞数



実施例 2 マウス組織からの細胞樹立

マウスから繊維芽細胞、骨髄由来間葉系幹細胞を調製し各培地で培養しました。

10% FCS-DMEMではほとんど細胞が増えてきません。MF-start™ではいずれも十分な細胞数を得ることができました。

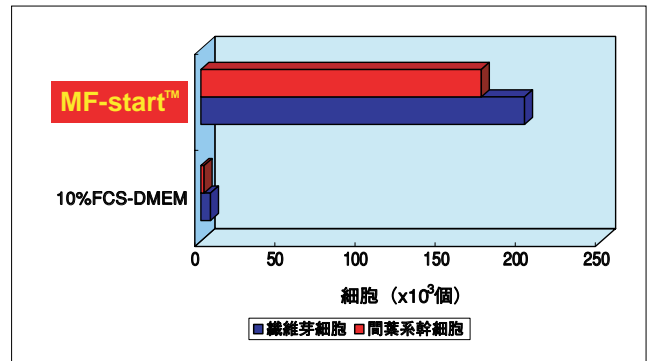
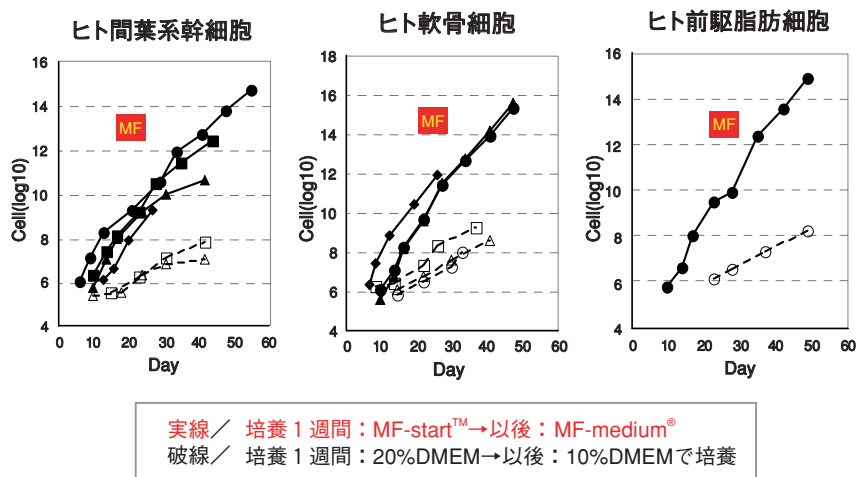


図3. マウス組織からの分離増殖細胞数

実施例 3 組織培養への適用例

ヒト組織から各細胞を分離し、分離直後1週間MF-start™で培養し、以後MF-medium®に切換え継代培養を行いました。

3週間で100倍と従来培地に比べ優れた増殖性を示しました。MF-start™と弊社MF-medium®を組み合わせることで短期間でより多くの初代細胞を得ることができました。



品名及び内容	包装	保存温度	Code No.	価格
初代細胞スターティング培地 MF-start™	250ml	培地 4℃、添加剤 -20℃	TMMFS-001	¥28,000

※本培地はインビトロ研究用のみ限定して販売しています。ヒト・動物への使用、臨床および体外診断には使用できません。

関連商品

品名及び内容	包装	保存温度	Code No.	価格	2004~2005 総合カタログ
間葉系幹細胞増殖培地 MF-medium®	500ml	培地 4℃、添加剤 -20℃	TMMFM-001	¥35,000	-

※本培地はインビトロ研究用のみ限定して販売しています。ヒト・動物への使用、臨床および体外診断には使用できません。